

第8回包装近未来シンポジウム (オンライン配信)

— 脱炭素に向けて包装は今後どう取り組むべきか —

●開催日：令和3年3月9日(火)

●主催：公益社団法人日本包装技術協会

包装近未来シンポジウムの参加申し込み方法について

JPIホームページ (URL: <https://www.jpi.or.jp/>) より参加登録をお願いします。

Zoom を利用したオンライン配信となります。

お申込みの方に、事前登録等の手続きをメールでご案内します。

開催にあたって

今回のシンポジウムでは、異常気候が多発する昨今、気候変動の現状について科学的な評価を概観し、脱炭素に対して包装はどのように対応しているか、今後どう対応すべきかを斯界の専門家の中から模索します。サステナビリティ、具体的なネスレの事例、再生再利用に向けたプラスチックのケミカルリサイクル、2030年の包装の予測などでプログラムを編成しており、更にパネルディスカッションで、具体的に今後の包装の対応を討議し、脱炭素の包装普及を目指したいと考えます。どうぞこの機会に関係各位奮ってご参加下さいませようご案内申し上げます。

講師・パネリストの紹介

■江守 正多(エモリ セイタ)氏

国立研究開発法人 国立環境研究所 地球環境研究センター副センター長

1970年 神奈川県生まれ

1997年に東京大学大学院 総合文化研究科にて博士号(学術)を取得後、国立環境研究所に入所

2018年より地球環境研究センター 副センター長

社会対話・協働推進オフィス (Twitter@taiwa_kankyo) 代表

専門は地球温暖化の将来予測とリスク論

IPCC (気候変動に関する政府間パネル) 第5次および第6次評価報告書 主執筆者

【著書】『異常気象と人類の選択』(角川マガジンス)、『地球温暖化の予測は「正しい」か?』

共著書『地球温暖化はどれくらい「怖い」か?』『温暖化論のホンネ』(技術評論社) など

■釣流まゆみ(ツリユウ マユミ)氏

株式会社 セブン&アイ・ホールディングス 執行役員 サステナビリティ推進部 シニアオフィサー

津田塾大学国際関係学科を卒業し、西武百貨店入社(現そごう・西武)。池袋本店婦人雑貨部、販売促進部、などを経た後、営業部門へ。執行役員顧客サービス部長、執行役員池袋本店副店長、執行役員所沢店店長、執行役員東戸塚店店長、執行役員文化プロモーション部長。2019年3月よりセブン&アイ・ホールディングスへ。

グループ環境宣言「GREEN CHALLENGE2050」の達成に向け活動を推進中。

■橋本 則夫(ハシモト ノリオ)氏

株式会社 湘南貿易 代表取締役

機械専門商社で経験と実績を重ね、1997年11月(株)湘南貿易を設立。ヨーロッパより特徴あるフィルム製膜関連装置の輸入に特化する。2000年より別法人としてエレマジャパン(株)を設立し、プラスチックの再生技術の紹介をスタートする。横浜グリーン購入ネットワーク監査

■橋本 香奈(ハシモト カナ)氏

大和製罐株式会社 技術開発センター 軟包装容器開発室

1992年 大和製罐株式会社に入社 総合研究所配属

レトルト用プラスチック容器研究開発等に従事

2013年 技術管理部 新規事業室配属 CVS向けの食品容器設計等に従事

2018年 技術開発センター 軟包装容器開発室配属 ベンチャー企業との共同研究開発を推進

技術士(経営工学部門) 包装専士(食品包装)

技術士包装物流会理事/日本包装専士会理事/「包装技術」編集委員副委員長 (2017年度~2018年度)

■後藤 敏彦(ゴトウ トシヒコ)氏 (企画委員)

特定非営利活動法人 サステナビリティ日本フォーラム 代表理事

サステナビリティ日本フォーラム代表理事

(一社)グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン 理事、環境経営学会会長、日本サステナブル投資フォーラム理事・最高顧問、グリーンファイナンス推進機構理事、レジリエンスジャパン推進協議会理事、環境パートナーシップ会議理事、法人アースウォッチジャパン理事など。

環境省事業//環境情報開示基盤整備事業WG座長/環境コミュニケーション大賞審査委員複数委員会の座長・委員など。東京大学法学部卒

著書多数

■住本 充弘(スミモト ミツヒロ)氏 (企画委員)

住本技術士事務所 所長

2004年1月 大日本印刷(株)を定年退職し、以後コンサルタント活動に入る。世界の包装展視察や世界の企業の包装コンサルタント活動や国内企業のコンサルタント活動を続けている。

日本技術士会会員、技術士包装物流会会員、日本包装学会会員、日本包装コンサルタント協会会員、日本包装管理士会会員

技術士(経営工学)、包装管理士、業界誌に執筆多数

■森 泰正(モリ ヤスマサ)氏 (企画委員)

株式会社 パッケージング・ストラテジー・ジャパン 取締役社長

1972年~2009年 三井・デュポン ポリケミカル(株)勤務

1988年~1990年 米国デュポン社 パッケージ事業部門に 出向

2009年~2017年 三井物産(株) パッケージング・シニアアドバイザー

2015年1月 (株)パッケージング・ストラテジー・ジャパンを有田氏(現有田技術士事務所 所長)より承継、現在に至る

海外と日本の最新パッケージング技術の融合を目指す活動を行っている

開催要領

●日時：令和3年3月9日(火) 10:00~16:40

●参加費：

1名分参加費 (配布資料代含む)	会員	会員 (3名割引1名あたり)	一般
本体	15,000円	13,000円	20,000円
消費税10%	1,500円	1,300円	2,000円
税込合計	16,500円	14,300円	22,000円

●定員：100名

お問い合わせ先

公益社団法人日本包装技術協会

包装近未来シンポジウム係 担当：竹内

〒104-0045

東京都中央区築地4-1-1 東劇ビル10F

TEL:03(3543)1189/FAX:03(3543)8970

e-mail: takeuchi@jpi.or.jp

【個人情報の取り扱いについて】

- 個人情報は「包装近未来シンポジウム」の事業実施に関わる資料等の作成、並びに当会が主催・実施する各事業におけるサービスの提供や事業のご案内のために利用させていただきます。なお、作成資料は開催当日、関係者に限り配布する場合があります。
- 参加申込みによりご提供いただいた個人情報は、法令に基づく場合などを除き、第三者に開示・提供することはありません。

参加申込方法と注意事項

【参加申込方法】

■本催しは「Zoomウェビナー」を利用したオンライン配信となります。

お申し込みは当会ホームページのシンポジウム参加申込ページよりご登録いただくようお願いいたします。

当会ホームページURL: <https://www.jpi.or.jp/>

■参加申込者には**参加用URL、参加方法、参加までの手順、注意事項**をお知らせしますので、確認の上参加の準備を進めて下さい。(登録後、事前の参加手続きが必要ですのでご注意ください。)

■申し込みされた方には後日参加料請求書をお送りします。

■申込者1名のみ本催しに参加できます。1つのメールアドレスで1人しか参加できません。

【注意事項】

- 「Zoomウェビナー」を利用したオンライン配信となりますのでご利用の端末へのZoomアプリケーションのインストールおよびインターネット接続が必要となります。
- 接続回線の状況により視聴しにくい場合があります。通信費・接続利用料金等は自己負担となります。
- 本セミナーの内容について、録画・録音・キャプチャー取得によるデータ保存行為を固く禁止します。
- 申し込みの際**メールアドレスの入力が間違っていると案内メールをお送り出来ません**のでご注意ください。
- 開催3日前からのキャンセルによる参加費のご返金はできませんのでご注意ください。

プログラム

時間	テーマ	講演者
10:00 11:00	<p>「気候危機のリスクと社会の大転換」 2015年末に国連気候変動枠組条約のCOP21で採択された「パリ協定」で、世界平均気温上昇を産業化以前を基準として2℃より十分低く保ち、さらに1.5℃より低く抑える努力を追求することが合意された。これを実現するためには、世界の温室効果ガス排出量を今世紀後半に正味でほぼゼロにする必要がある。温室効果ガス排出の主要部分はエネルギー起源の二酸化炭素であるから、これは化石燃料に依存しない社会（脱炭素社会）を今世紀中に実現するという国際社会の決意を意味している。</p> <p>本講演では、地球温暖化の現状、将来予測、リスクについての科学的な評価を概観した後、脱炭素という課題に私たちがどう向き合っていくべきかを考える。</p>	<p>国立研究開発法人 国立環境研究所 地球環境研究センター 副センター長 江守 正多 氏</p>
11:10 12:10	<p>「サステナビリティに対して日本企業はどう対応すべきか」 ～中長期ビジョン、戦略策定の必要性～</p> <p>コロナ禍の中で気候危機に対して世界は動いている。日本も2050年までにカーボン・ニュートラルを菅首相が宣言した。産業革命以来の大工業文明は化石燃料によって築き上げられてきたものであるが、脱炭素というのは経済・社会システムの大変革（トランスフォーメーション）を意味する。トランスフォーメーションを推進する駆動力としてのESG金融も益々盛んになってきている。</p> <p>超長期、例えば2050年のありたい会社像を描き、そこからバックキャストして、ありたい姿へのストーリー性のあるロードマップを描くことが必須である。それは、2050年までの環境制約、例えば気候変動、海洋プラスチック問題等を克服した、発展戦略と一体化したものである。</p>	<p>特定非営利活動法人 サステナビリティ日本フォーラム 代表理事 後藤 敏彦 氏</p>
13:10 13:40	<p>「セブン&アイ・ホールディングスのSDGSについて」 ～プラスチック循環の取組～</p> <p>セブン&アイグループのSDGsについて、グループ5つ重点課題の特定とSDGsへの適合について、その具体的な事例を紹介する。</p> <p>グループで初めて策定した中長期での環境目標「GREEN CHALLENGE 2050」から、CO₂排出量の削減、プラスチック対策、食品ロス・食品リサイクル対策、持続可能な調達の4つのテーマと推進体制について説明する。</p> <p>特にプラスチック対策の中で最も重要な活動に位置付けている「サーキュラー・エコノミー」の取り組みの一つであるペットボトルリサイクルについて、オリジナル商品に使用するプラスチック製容器包材の取り組み事例を紹介する。</p>	<p>株式会社 セブン&アイ・ホールディングス 執行役員 経営推進本部 サステナビリティ推進部 シニアオフィサー 釣流まゆみ 氏</p>

企画委員

本シンポジウムは下記企画委員の皆様のご協力により開催しております。

- 後藤 敏彦 氏 特定非営利活動法人 サステナビリティ日本フォーラム 代表理事
- 住本 充弘 氏 住本技術士事務所 所長
- 森 泰正 氏 株式会社 パッケージング・ストラテジー・ジャパン 取締役社長

時間	テーマ	講演者
13:50 14:20	<p>「欧州および日本におけるプラスチックのマテリアル・ケミカルリサイクルの動向並びにその一端を担うエレマの技術の特徴について」 プラスチック再生機械の分野において世界トップメーカーであるEREMA社の視点で捉えたヨーロッパの現状を説明するとともに、そこに使用される技術及びリサイクルされたプラスチックの使用用途を紹介します。そのうえで、現状課題として残る複合材料に関して、油化、ガス化、および燃焼技術が、どの程度検討され、採用されているかを検証します。</p> <p>また、湘南貿易として取り組んだ現在も生産機として稼働する油化装置の説明を通して、油化、ガス化、燃焼技術の可能性に関して考えてみます。</p>	<p>株式会社 湘南貿易 代表取締役 橋本 則夫 氏</p>
14:30 15:00	<p>「(日本包装専士会「2030年包装の未来予測」)2つの“C”-Crisisが早める未来への期待」 TOKYO PACK 2018「2030年包装の未来予測」では、国連 SDGsの持続的成長の目標達成に向け、デジタル技術と生活者変化が環境対応や食品ロス削減において、包装を進化させることを示しました。2020年、2つの“C”-Crisis、すなわち“Climate Change”と“COVID-19”の脅威が地球と人類の生命に迫ってきました。TOKYO PACK 2021で発表した「2030年包装の未来予測」では、海洋プラスチック問題のみならず、脱炭素社会の形成、資源循環型社会の形成という世界共通の目標と、包装が持つ機能と役割を一致させ、同時に達成させる必要を痛感しました。2つの“C”に、“Circular Economy”を加えた3つの“C”を“Critical Challenge”と捉え直し、2030年の持続可能な未来社会に向けて容器包装のあるべき姿を考える第一歩を踏み出しましょう。</p>	<p>大和製罐株式会社 技術開発センター 軟包装容器開発室 橋本 香奈 氏</p>
15:10 16:40	<p>パネルディスカッション 『脱炭素に向けて包装は今後どう取り組むべきか』</p> <p>【司会進行】 住本技術士事務所 所長</p> <p>【パネリスト】 国立研究開発法人国立環境研究所 地球環境研究センター 副センター長 (株)セブン&アイ・ホールディングス 執行役員 サステナビリティ推進部 シニアオフィサー (株)湘南貿易 代表取締役 大和製罐(株) 技術開発センター 軟包装容器開発室 特定非営利活動法人サステナビリティ日本フォーラム 代表理事 (株)パッケージング・ストラテジー・ジャパン 取締役社長</p>	<p>住本 充弘 氏(企画委員)</p> <p>江守 正多 氏 釣流まゆみ 氏 橋本 則夫 氏 橋本 香奈 氏 後藤 敏彦 氏(企画委員) 森 泰正 氏(企画委員)</p>